

第 2 回 AI・半導体WG 事務局説明資料

2026年4月3日 内閣府・経済産業省

これまでの議論

(経緯)

- 前回のA I・半導体WGでは、**A I・半導体分野を取り巻く足元の課題を整理した上で、戦略投資拡大に向けた官民投資ロードマップの方向性**について御議論をいただいた。
- 具体的には、主に以下の点についてご議論いただいた。
 - ・ A Iを軸とした産業構造転換に向けて必要な取組やボトルネック
 - ・ パーティカルA IやフィジカルA Iを核とした、我が国の国際競争力強化に向けた勝ち筋
 - ・ 実装先アプリケーションから逆算して半導体を最適設計・統合する“System to Silicon”を軸とした、先端・次世代半導体、アナログ・レガシー、電子部品等の一体的強化
- その後、3/10に第2回成長戦略会議が開催され、各分野で**先行的して検討を進めている主要な製品・技術**について、**現状や目標、基本戦略、官民投資の具体像、投資促進に向けた課題や講じるべき政策**をまとめた**官民投資ロードマップ素案**が公表された。
- A I・半導体分野では、本WGにおける議論を踏まえ、**①フィジカルA I（特にA Iロボット）と②フィジカル・インテリジェント・システムの中核を担う半導体**の二つについて、**先行的に官民投資ロードマップ素案を整理**させていただいた。
- 今回、残る主要製品・技術として、**③パーティカルA I**についても**官民投資ロードマップ素案を整理**させていただいた。

第2回AI・半導体ワーキンググループにてご議論いただきたい内容

(討議事項)

- 各製品・技術における日本の「勝ち筋」を見出し支援策を明らかにし、これによって引き出される国内投資の内容や規模、時期を明らかにするようという総理指示を踏まえ、①～③を合わせたAI・半導体分野の官民投資ロードマップ素案の全体について改めてご意見をいただきたい。
- 特に、今回初めて議論させていただくバーティカルA Iについて、フィジカルA Iの先行役となる観点からも、以下の点について議論いただきたい。
 - ・ 領域特化型A Iとして特に重点を置くべき産業や行政の領域
 - ・ 鍵を握るデータの利活用や人材の創出の在り方
 - ・ 企業や行政機関等におけるA Iトランスフォーメーションの在り方
- 併せて、以下の点についてもご議論いただきたい。
 - ・ 高齢化・災害等の社会課題や製造業を中心に蓄積された現場データ・ノウハウを起点に、フィジカルAIの社会実装を世界に先駆けて実現するための官民投資の具体像
 - ・ ロボット・自動車等の需要側で求められる機能要件から逆算し、チップを設計・作り込む“System to Silicon”を軸とした半導体設計・開発能力強化に向けた官民投資の具体像

(報告事項)

- A Iロボティクス関係府省連絡会議において、A Iロボティクス戦略を策定した旨をご報告させていただきたい。

(参考) 日本成長戦略会議における議論の進捗について

■ 3/11 第3回日本成長戦略会議における高市総理御発言 (抜粋)

本日は、17の戦略分野について、具体的に投資を促進していくべき『主要な製品・技術等』をお示しするとともに、その中でも、『先行する製品・技術等』について、『官民投資ロードマップ』を提示させていただき、委員の皆様から貴重な御意見を賜りました。

本日お示した『主要な製品・技術等』は、『国内のリスク低減の必要性』、『海外市場の獲得可能性』、『関係技術の革新性』などの観点から、戦略的に選択したものです。

戦略分野の担当大臣におかれましては、委員の皆様の御指摘を踏まえて、**『主要な製品・技術等』の内容を更に精査するとともに、本日提示した『先行する製品・技術等』以外の製品・技術等についても、スピード感をもって、『官民投資ロードマップ』の策定を進めてください。**具体的には、**各製品・技術等について、日本が取り得る『勝ち筋』を見い出し、供給及び需要の両面にアプローチする多角的な観点からの総合支援策を明らかにする**ということとともに、**これによって引き出される国内投資の内容、規模、時期などを明らかにしてください。**～
(略) ～

こうした成長戦略によって実現を目指す『強い経済』がどのような姿になるか定量的に示し、『日本成長戦略会議』と『経済財政諮問会議』とが密接に連携しつつ、夏の『骨太方針』など、今後の経済財政運営にも反映していくことが必要です。～ (略) ～